『太平記』巻四（翻刻）

中西達治　筒井早苗
水野ゆき子　澤田佳子
足立歩美

本稿は、二〇〇一年三月刊の『金城学院大学論集』国文学篇第四十三号に紹介した、中西所蔵本『太平記』の翻刻である。本『太平記』は、巻二から巻二十九までの、二十八巻二十八冊が現存しており、ここに紹介するのは、その巻四に当たる。

本巻の特長と思われる点について、以下に簡単に記しておきたい。

本文全体の流れは、巻三と同じく、基本的に神宮徴古館本に一致する。原本文をこすり消して訂正した部分がいくつかあるが、それらの原本文はいずれも神宮徴古館本に一致しており、訂正後の本文は、他の諸本に同じもしくは全く異文となるなど様々である。

翻刻に当たっては次のような点に留意した。

一、底本は、漢字片仮名混じりの表記である。本文の作成に当たっては、あたう限り原形を残すようにつとめた。ただし、底本の本文には、脱字を欄外に補ったり、誤記、誤字の類を、見せけちにしてその上に新しい文字を書き加えたり、長文を書き加えたり、甚だしい場合には、張り紙をして異文を追加したりした箇所があり、本文の内容に関わる改変が行われている場合がある。しかもその改変は必ずしも本文と同筆とはいえないところが見られる。そのため翻刻に当たっては、通常の誤字、誤記の類はその訂正に従ったが、その他の場合には、訂正加筆された部分を、その旨本文中に示すなど、あたう限り訂正以前の元の本文が確認できるように配慮した。

一、各ページの終わりに、そのページの丁数・表裏の別を【1オ】のごとく示した。

一、仮名遣い、送りがな、宛て字、漢文表記等については、底本のままとし、みだりに改定を加えなかったが、書写者特有の造字等については通行の文字に改めたところがある。また「〆」は「シテ」、「〻」は「ナリ」、「了」は「コト」とした。

一、本文には、地名に二重の、人名に一重の朱引きがあるが、省略した。

一、底本の破損、虫損、その他判読不能な箇所は□とし、推定できるものは□の中に当該文字を記した。

一、旧漢字は常用漢字に改めた。
一、異体字はそのまま記した。
一、書写者の書き癖はそのまま記した。例：「梟」＝ける・けり
一、単なる誤記の訂正にとどまらないこすり消し、見せけちは、当該箇所の右に傍線を引き、訂正後の本文を小括弧（）に入れた。
一、異本については、小括弧で示した。異本表記のないもので、異本に記載のあるものについては、アスタリスク＊で示した。例：「恨ニム（招ク）」「十七（六）＊人」
一、本文への挿入は亀甲括弧〔〕で示した。
一、本文左に挿入された注については、亀甲括弧に入れ「左注」とした。例：「壮（ワカン）〔左注サカン〕」
一、底本の一行が本縞の一行におさまりきらない場合には、改行して一字下げとした。
一、翻刻は、中西達治、筒井早苗、水野ゆき子、澤田佳子、足立歩美の共同作業によるが、最終的文責は中西にある。

囚人配流之事
備後三郎高徳事付（チカ）呉越事
先帝御下着之事

太平記巻第四

囚人配流之事

笠置城被責落シ刻被召捕給人々ノ叀去年ハ歳末ノ計会（イ）ニ依テ暫被閣畢ヌ新玉ノ年立帰ヌレハ公家ノ朝　【1オ】
礼武家ノ沙汰始テ後東使工藤次郎左衛門尉二階
堂信濃入道二人上洛シテ死罪ニ可レ行人々流刑ニ可
レ処国々関東評定ノ趣ヲ六波羅ニテ被レ定山門南
都ノ諸門跡月卿雲客ノ諸衛司等ニ到テハ罪ノ軽
重ニ依リテ禁獄流罪ニ処ス共足助次郎重範ヲハ六条河
原ニ引出シ首ヲ刎ラルヘキノ由ヲ被レ定万里少路大納言宣
房卿ヲハ子息藤房季房二人ノ科ニ依テ武家ニ召捕レ
是モ囚人ノ如ニテソ被レ居梟我齢七旬ニ傾テ万乗聖
主ヲハ遠嶋ニ被レ遷サセ給ヘシト聞ヘ二人ノ賢息ハ死　【1ウ】
罪ニソ被レ行スラント覚ルニ我身サヘ禁囚ノ人ト成給ヘハ只今
迄命存テ此ル憂叀ヲ而己見聞叀ノ悲サヨト一方ナラ
ヌ思ニ一首ノ哥ヲソ被詠梟

長カレト何思ケン世間ノ憂ヲミスルハ命成リ梟リ
ト罪科有モ非ルモ先朝拝趨（スウ）ノ月卿雲客ハ或ハ出仕ヲ
被レ止テ桃源（タウ）ノ跡（アト）ヲ尋子或ハ官職ヲ被レ解（ト）テ首陽ノ愁ヲ
イタク運ノ通塞（ソク）時ノ否泰夢トヤセン覚（ウウ）トヤセン時移リ
叀去テ哀楽互ニ変スル浮世ノ中ノ分野楽テモ何為ン
哀（ニテモ）無レ由ヘシ源中納言　【2オ】
具行卿ヲハ佐々木佐渡ノ判官入道路次ヲ警固仕リ鎌倉ヘ下シ奉リ道ニテ失奉ヘキ
由ヲ兼テ告申人ヤ有ケン逢坂ノ関ヲ赴給トテ
帰ヘキ時シナケレハ是ヤ此ノ行ヲ限リノ逢坂ノ関

ト勢多橋ヲ渡リ給トテ

今日ノミト思フ我身ノ夢ノ世ヲ渡ル物カハ勢多ノ長橋

ト此卿ヲハ道ニテ可レ奉レ失ト兼テ定ラレシ叓ナレハ遂ニ近江国柏原ニテ奉レ切ヘキ由検使襲（シウ）〔ヲソウ〕左注来シテ急キケレハ道誉中納言殿ノ御前ニ参リ何成先世ノ宿習ニ依カ多ノ人ノ中ニ入道預リ参セテ今更加様ニ申候ヘハ且ハ情（ケ）ヲ不レ知ラ相似テ【２ウ】候ヘ共此ル御身ニハ力ナキ次第ニテ候今迄ハ随分天下ノ赦ヲ待テ日数ヲ過シ候ツレ共関東ヨリ可レ奉レ失由堅ク被申付候ヘハ何叓モ先世ノ所作ト思召慰セ給ヘシト申モ合ヘス袖ヲ顔ニ推当シカハ中納言殿モ不覚ノ涙推拭ハセ給テ誠其叓ニテ候此間ノ儀ハ後世迄モ難レ忘コソ覚候ヘ命ノ際ノ叓ハ万乗ノ君已ニ外（クワイ）土遠嶋ニ御遷幸ノ由聞ヘ候上ハ其ヨリ以下ノ叓中々申ニ不及殊更此程ノ情ノ色誠ニ存命ス共難レ謝コソ候ヘト計ニテ其後ハ物ヲモ不レ被レ仰硯ト紙トヲ取寄テ御文細々ト遊シ都ノ使ニ叓付テ相知方ヘ遣テ給レ【３オ】トソ被レ仰梟角テ日已ニ暮梟レハ御輿差寄テ乗奉リ海道ヨリ西成山際ニ松ノ一村有下ニ御輿ヲ舁居タレハ敷皮ノ上ニ居直ラセ給テ閑々ト辞世頌ヲソ書レ梟

逍遥ノ生死四十二年山河一（ヒ）革（アラタマツテ）大地洞然（ゴ）タリ

ト書テ手ヲアサヘ座ヲナヨクシ給トソ見シ田児六郎左衛門後ヘ廻ルカト思ヘハ御首ハ前ニソ落ニ梟其分野哀ト云モ愚（ヨロカ）也入道泣遺骸（ユイ）ヲ煙トナシ様々ノ作善ニテ吊奉ル寂惜（イト）キカナ此卿ハ先帝輔（ケ）ノ宮（ヤ）ト申奉シ比ヨリ近侍（キンジ）シテ朝夕ノ拝礼怠ラス夙夜ノ勤労吳レ他也去ハ次第ノ昇（シヤウ）進モ滞ラス君ノ恩【３ウ】寵モ深リキ今角奉レ失ヌト叡聞ニ達ナハ何計カ哀ニモ思召スラント覚タリ同廿一日殿ノ法印良忠ヲハ大炊御門油小路簿屋小串五郎兵衛尉秀信召捕テ出タリ梟ハ越後守仲時斉藤十郎兵衛ヲ使ニテ被レ申梟ハ此比一天ノ君タニモ叶ハセ給ヌ御謀叛ヲ御身ナト思立給事其難ク意得ニ亦ハ楚忽ニコソ覚候ヘ主上ヲ奪参ラセン為ニ当所ノ絵図等迄持廻ラレ候梟条武敵ノ到重科双ナク隠謀ノ企罪債（セキ）身ニ余レリ次第一々ニ被レ述候ヘ具ニ関東ヘ注進スヘシトソ申梟法印返事セラレ梟ハ普天ノ下王土ニ非ト云【４オ】叓無ク卒土ノ宣（宝）王臣ニ非ト云叓ナシ誰カ有テ先帝ノ宸襟ヲナケキ奉サラン叡慮ニ代リ参ラセテ玉躰ヲ奪イ取奉ラント謀叓何カハ情ケナカルヘキ無道ヲコラサンカ為ニ隠謀ヲ企ル叓更ニ楚忽ノ儀ニ非ス始ヨリ叡慮ノ趣ヲ存知シテ笠置ノ皇居ヘ参ル条子細ナシ然ヲ白他ニ出京ノ跡ニ城墫ノ固メ無シテ官軍敗北ノ間力無ク本意ヲ失ヘリ去間ニ相談シテ綸旨ヲ申シ下シ諸国ノ兵ニクハル条勿論也有程ノ叓ハ此等成トソ返答セラレ梟依レ之六波羅ノ評定様々成梟ヲ二階堂信濃入道行珎進出申梟ハ彼罪請勿【４ウ】論ノ上ハ是非無ク被レ誅ヘケレ共与党人ナト尚尋沙汰有重関東ヘ可レ被レ申カトコソ存候ヘト申梟レハ長井右馬助此儀尤可然候是程ノ大叓ヲハ関東ヘ被レ申候テコソト申テ面々ノ吳見一同セシカハ去ハ法印ヲハ五条京極簿屋加賀ノ前司ニ被

レ預テ是ヲ禁籠セシメ重テ関東ヘ可レ被二注進一トソ定ニ梟ル
平宰相成輔ヲハ川越三川入道具足シ奉リ是モ鎌倉ヘ
ト聞ヘシカハ下着奉ラテ相模国早河尻ニテ失奉ル侍従ノ中納言
公明別当実世卿ヲハ赦免ノ由ニテ有シカ共尚モ心許ヤナカリ
ケン波多野上野介佐々木三郎左衛門尉ニ被レ預テ尚モ在所ヘ【5オ】
ハ帰給ス尹大納言師賢卿ヲハ下総国ヘ流シテ千葉介ニ預ケ
ラル此人志学〔左注十五歳ナリ〕ノ歳ノ昔ヨリ和漢ノ才ヲ叀トシテ更ニ栄
辱ノ
ウチニ心ヲ留メ給サリシカハ今遠流ノ刑ニアフ叀露計モ心ニ
懸思ハレス盛唐ノ詩人杜少陵カ天宝ノ末ノ乱ニアフテ路経二艶
傾一双蓬鬢天入二滄浪一釣ノ舩ト天涯ノ恨ヲ吟シ尽シ吾
朝ノ哥仙小野篁ハ隠岐国ニ被レ流テ大海ノ原八十嶋カケテ漕
出ヌト旅泊ノ思ヲ述告シ是皆時ノ難易ヲシリテ可レ歎ヲ歎カ
ス運ノ窮達ヲ見テ可レ悲ヲ悲ス況ヤ主憂ヘル則臣辱主
辱則臣死ト云リ縦(仮)使骨ヲ完醤ニセラレ身ヲ車裂ニセ【5ウ】
ラル共所レ可レ傷ニ非トテ少モ悲給ス只時ニヨリ興ニフレタル諷諫
ニテ等閑ニ日ヲ渡給フ今ハ浮世ノ望絶ヌレハ出家ノ志有ト
頻ニ被レ申ケレハ相模入道子細候ハシト奉レ許シカハ歳末強〔左注四十ノ
吴名ナリ〕
仕ニモ満サルニ翠ノ髪ヲ剃落テ散聖遁人ト成給ヒシカハ幾
程ナクシテ元弘ノ乱出来セシ初病ニ被レ侵テ円寂給梟トカヤ
春宮ノ大進季房ヲハ常陸国ヘ流テ長沼駿河守ニ預ケ
ラル中納言藤房ヲハ国レニ同流テ小田民部大輔ニソ預ラレ梟左
遷遠流ノ悲ハ何モ劣ヌ涙ナレ共殊ニ此卿ノ心中推量ルニモ
尚過タリ近来中宮ノ御方ニ左衛門佐ノ局トテ□色【6オ】
殊ニ勝タル女房御座梟去元亨ノ秋末ニ主上北山殿ヘ行
幸成テ御賀舞ノ有梟時堂下ノ上達部袖ヲ飜シ梨園ノ
弟子曲ヲ奏セシム繁絃急管何モ金玉ノ声玲瓏タリ
此女房琵琶ノ役ニ被召テ青海波ヲ被レ弾シニ閑関タル鶯
ノ語ハ花底ナメラカニ幽咽セ(タ)ル泉ノ流ハ氷下ニイタメリ敵
怨清和節ニ随テ移リ四絃一声帛ヲサクカ如シ株テハ
又推返ス一曲ノ清音梁上ニ燕トヒ水中ニ魚ヲトルハカリ也中
納言風ニ是ヲ見給テヨリ人知ス思ヒ染メ梟心ノ色日ニソイ
テ深クノミ成行共指南スヘキ便モナケレハ心ニ籠テ思明シ身【6ウ】
ヲシノンテ歎暮シ年ノ三年ヲ過シ給梟カ何成人目ノ紛ニカ
露情ノ懸言ヲ結レケン夢覚貞カナラヌ一夜ノ枕ヲカワシ給
ケリ其明夜ノ叀ソカシ主上俄笠置ヘ落サセ給ケレハ藤
房衣冠ヲヌキテ戎〔左注シウ〕衣ニ成供奉セントシ給ケルカ此女房
ニ廻合ン未契モ知難ク一夜ノ夢ノ面影モ霞名残惜ク
テ今一度見モシ見ェハヤト被レ思ケレハ彼女房ノ住給西ノ台ヘ
ヘ行テ見給ニ時シモコソ有今朝中宮ノ召有テ北山殿
ヘ参給ヌト申ケレハ中納言鬢髪ヲ少切テ哥ヲ書
ソヘテソ置レ梟【7オ】

黒髪ノ乱ン世ニテ存ハ是ヲ今ハノ形見トモ見ヨ

ト此女房立帰形見ノ髪ト哥トヲ見テ読テハナキ泣テハヨ
ミ千度百般巻返セトモ心乱テ為方ナシ懸ル涙ニ文字

キヘテ寂ト思ニ堪煩タリ責テ其人ノ在所ヲ知タラハ何
成虎伏野ヘ鯨ノヨル浦端成共尋行ヘキ心地シケレ共其
向後何ク共聞定メス亦逢瀬ノ契モ不知シラ子ハ余思
ニ堪煩テ

書置シ君カ玉章身ニソヘテ後世迄ノ記念ヤセン

ト先哥ニ一首書副テ形見ノ髪ヲ袖ニ入大井川ノ深淵ニ【７ウ】
身ヲ投梟コソ哀ナレ為ニ君カ一日ノ恩一誤ニ妄カ百年身ニトハ彼
様ノ叟ヲヤ申ヘキ按察大納言公敏卿ヲハ上総国東
南院僧正聖尋ヲハ下野国僧正俊雅ハ対馬国ト
聞シカ俄其儀改テ長門国ヘ流レ給フ第四ノ宮ヲハ但馬国
ヘ奉流テ其国守護大田判官ニ預ラル第九宮ハ未御
幼稚ニ御在ハトテ中御門中納言定(宣)明卿ニ預ラレテ都内
ニソ御坐有梟此宮今年ハ八歳ニ成セ給梟カ世常ノ人
ヨリモ御心根賢ク御座シカハ常ハ主上已ニ人モ通ヌ隠岐
国トヤランニ被レ流セ給成上ハ我一人都中ニ留リテモ何為哀【８オ】
我ヲモ君ノ御座有ンスル渡リヘ流遣ヨカシ責テハ余所ナカラモ
御向後ヲ承ント搔詢キ打萎テ御涙更ニ関合ス□モ今
君ノ推遷サレテ御座有成白川ハ京近キ所トコソ聞ニ宣
明ハナト我ヲ具足シテ御所ヘハ参ヌソト仰有梟レハ宣明卿泪
ヲ、サヘテ皇居程近キ所ニテタニ候ハ、朝夕御供仕テ参
ラン亥子細有間敷候カ白川ト申所ハ都ヨリ数百里ヲ経テ
下道ニテ候去ハ能因法師カ哥ニ

都ヲハ霞ト共ニ立シカト秋風ソ吹白川之関

ト詠テ候シ哥ニ行道ノ程遠ク人ヲ通ヌ関有トハ知ロシ召レ【８ウ】
候ヘト被申ケレバ宮御涙ニムセハセ給テ且ハ仰出サル叟モナシ
良有テ去ハ宣房(明)我ヲ具足シテ不レ参ト思ル故ニ彼様ニハ申者也
能因法師カ白川ノ関ト詠タルハ今ノ洛陽渭〔左注〕〔シヅク〕水ノ白川ニハ
非ス是ハ
東ノ関陸奥ノ名所ナリ近来是ヲ本哥ニテ津守国基
カ詠タリシ哥ニ

白川ノ関迄越ヌ東路モ日数経ヌレハ秋風ソ吹

ト亦寂勝寺ノ檻桜ノ枯タリシヲ植替ルトテ藤原雅経朝
臣カ哥ニ

ナレ〳〵テミシハ名残ノ春ソ共ナト白川ノ花ノ下陰【９オ】

ト是皆名ハ同シテ所ハ替レル証哥也宜ヤ今ハ心ニ籠テ云出サシト
宣明ヲ恨思召テ其後ヨリハ搔絶テ恋シトタニモ仰ラレス
万物悲シキ御気色ニテ中門ニ令立給ヘル時節遠寺ノ
晩鐘幽ニ聞ケレハ

一々ト思暮シテ入合ノ声(鐘)ヲ聞ニモ君ソ恋敷

ト情内ニ動キ言外ニ形タル御哥ノ情サ哀ニ聞シカハ其比
京中ノ僧俗男女是ヲ畳紙亦ハ扇裏ニ書付テ是コソ
八歳ノ宮ノ御哥ヨトテ翫ハヌ人ハナカリ梟三月八日一宮
中務卿親王尊良ヲハ佐々木大夫判官時信ヲ路【９ウ】
次ノ御警固ニテ土佐畑ヘ流奉ル今迄ハ縦(仮)使愁刑ノ下ニ
死シテ原上ノ土ニ埋マル共都ノ渡ニテ兎モ角モ責テ成ハヤト
天ニ仰地ニ伏テ御祈念有梟レ共昨日已ニ先帝ヲモ奉レ流

ヌト御警固ノ武士共申合梟ヲ聞食テ御祈念ノ御
憑モナク寂心細ク思召レ梟処ニ武士共参テ中門ニ御輿
ヲ差寄梟レハ押ヘ煩タル御泪ノ中ニ
関留ル柵ソナキ涙河イカニ流々浮身成覧
ト同日妙法院三品親王尊澄ヲハ長井左近将監高広ヲ
道中御警固トシテ讃岐国ヘ奉流ル昨日ハ主上御遷幸　【10オ】
ノ由ヲ承リ今日ハ一宮被レ流給ヌト聞召テ御心ヲ傷シメ給ヒ
梟ニ憂名モ替ワラヌ同路ニ而モ別テ赴給御心ノ中社
悲梟初ノ程ハ別々ニテ御下有梟カ十一日ノ暮程ニハ一宮モ妙
法院モ諸共ニ兵庫浦ニ着セ給梟一宮ハ是ヨリ御船ニ召
レテ土佐畑ヘ御下有ヘシト聞梟レハ御文ヲ被参梟ニ
今迄ハ同宿ヲ尋来テ跡ナキ浪ト聞ソ悲シキ
ト一宮ノ御返戈ニ
明日ヨリハ跡ナキ波ニ迷共通フ心ヨ指南共ナレ
ト配所ハ共ニ四国ト聞ユレハ責テハ同国ニテモ有カシ戈問通ス
【10ウ】
風ノ便ニ憂ヲ慰ム一節ニモト思召梟モ叶ハテ一宮ハ漂波ニ
漕レ行身ヲ浮舟ニ召レテ土佐畑ヘト令赴給ヘハ妙法院ハ是
ヨリ引別レ備前国迄陸地ヲ経テ児嶋吹上ヨリ御舟ニ被
レ召テ讃岐詫間ニ令着給誠海辺近キ所ニテ毒霧御
身ヲ侵ノミカハ漁哥牧笛ノ夕声嶺雲海月ノ秋ノ色
都テ耳ニフレ眼ニ遮ル戈ノ哀ヲ促シ涙ヲソウル媒ト不
成ト云戈ナシ去程ニ先帝ヲ承久ノ例ニ任テ隠岐国ヘ可
レ奉流ニ定リニ梟然ルヲ臣トシテ君ヲ流奉ル戈関東モ遉
恐有トヤ思ケン此為ニ後伏見院第一御子ヲ御位ニツケ　【11オ】
奉テ先帝御遷幸ノ宣旨ヲ可レ被レ成トソ計申梟天下ノ
戈ニヲイテ今ハ重詐ノ御望可有ニモ非サレハ遷幸以前ニ
法皇ニ可レ奉レ成トテ香染御衣ヲ武家ヨリ調進タリ梟共
御法躰ノ御戈ハ暫有間敷由ヲ被仰テ袞龍御衣ヲモ
令レ脱給ハス毎朝ニ御行水ヲ召レ仮ノ皇居ヲキヨメテ石灰ノ
壇ニナスラエ大神宮ノ御拝有梟レハ天ニ二ツノ日ナケレ
共国ニ二ノ主イマス心地シテ武家モ持扱テソ覚梟是モ
叡慮ニ頼思召戈有梟故也去元亨元年ノ春比元
朝ヨリ俊明極トテ得智ノ禅師来朝セリ天子直ニ呉朝　【11ウ】
ノ僧ニ御相看ノ戈ハ前々更ニ無リシカ共此君禅宗ノ教ニ
令レ傾給テ諸方参得ノ御志御坐シカハ御法談ノ為ニ此禅
師ヲ禁中ヘソ被召梟戈ノ儀式微々ナランハ吾朝ノ恥辱
タルヘシトテ三公九卿モ出仕ノ粧ヲ刷イ蘭台金馬モ
守禦ノ備ヲ儼セリ夜半ニ蠟燭ヲツタヘテ禅師参
内セラル主上紫宸殿ニ出御成テ玉扆ニ席ヲ進メ給フ
禅師三拝シ畢テ香ヲ拈シテ万歳ヲ祝ス時ニ勅問有テ曰ク
棧山ニ航レ海ニ得々シテ而ニ来ル和尚何以カ度生
ト禅師答テ申ク　【12オ】
仏法緊要ノ処以レ是度生セン矣
ト重テ問曰ク
正当恁麼之時奈何

ト亦答テ申ク

天上ニ有レ星皆拱レ北ニ人間ニ無シ三水トシテ不スニ云コト朝ニ王コトセレ東ニ一

ト御法談事畢テ禅師拝揖シテ退出セラレケレハ明ノ日別

当実世卿ヲ勅使ニテ禅師号ヲ被レ下時ニ禅師勅使ニ

向テ此君亢龍ノ悔有ト云共二度帝位ヲ令レ践給ヘキ御

相有トソ被レ申梟今君武臣ノ為ニ囚テ亢龍ノ悔ニ合セ　【12ウ】

給梟レ共彼禅師相申タル叟ナレハ二度九五ノ帝位ヲ践給ン

叟無レ疑ト思召梟ニ依テ法躰ノ御叟ハ且有間敷由ヲ強ニ

被レ仰出梟去程ニ三月十七日先帝已ニ隠岐国ニ被レ遷セ給ト

聞梟レハ中宮夜ニ紛テ六波羅ノ御所ヘ行啓ナラセ給フ已ニ中

門ニ御車ヲ差寄タレハ主上出御成テ御車ノ簾ヲ挑ケラル

君ハ中宮ヲ都ニ留置奉リテ旅泊ノ浪長汀ノ月ニ鈴併〔左注〕〔左遷ノ心也〕

給ンスル行末ノ叟ヲ思召ツラ子中宮ハ主上ヲ遥ト遠外ニ想

像参ラセテ何ノ憑ノ有世共ナク明シ煩タル長夜ノ心迷ハス

思ニテ存タラン襟共ニ語尽サセ給ハ秋ノ夜ノ千夜ヲ一夜ニ

【13オ】

准フ共尚言ハ残テ明ヌヘケンハ御心ノ中ノ憂程ハ其言葉

モ及ハ子ハ中々云出サセ給一節モナシ只御泪ニノミ掻暮テ

顔見シ晨朝モ傾迄ニ成ニ梟夜モ已ニ明ナントシケレハ中

宮御車ヲ廻シテ還御成梟カ御泪ノ中ニ

此上ノ思ハ非シ顔サノ命ヲ去レハイツヲ限リソ

ト計聞テ伏沈セ給ナカラ還車ノ別路ニ廻逢瀬ノ憑ナキ御

心ノ中コソ悲ケレ明レハ三月十七日千葉介貞胤小山五郎左

衛門尉〔秀朝〕佐々木佐渡判官五百余騎ニテ路次ヲ警固仕テ

先帝ヲ隠岐国ヘ奉レ遷供奉ノ人々トテハ一条ノ頭ノ大夫行　【13ウ】

房六条少将忠顕御介尺ニハ三位殿御局計也其外ハ皆甲

冑ヲヨロイ弓矢ヲ帯セル武士共前後左右ニ打囲奉リテ

七条ヲ西ヘ東洞院ヲ下ヘ御車ヲキシレハ京中ノ貴賤男女

小路ニ立並テ正ク一天ノ主ヲ下トシテ奉レ流叟ノ浅増サヨ武

家ノ運命今ニ尽ナント所レ憚モナク云声岐ニ満テ只赤子ノ

母ヲシタウカ如ク啼悲ケレハ聞ニ哀ヲ被レ催テ警固ノ武士

モ諸共ニ皆鎧ノ袖ヲソ湿梟桜井ノ宿ヲ過サセ給梟時八

幡ノ伏拝ニ御輿ヲ舁居サセテ二度帝都還幸ノ叟ヲ

ソ御祈念有梟八幡大菩薩ト申ハ応神天王ノ宿(宗)　【14オ】

廟トシテ百王鎮護ノ御誓新ナレハ天子行在ノ外迄モ定

テ擁護ノ御眸ヲソ被レ廻ナント憑敷コソ思召レケレ湊川ヲ

過サセ給梟時福原ノ京ヲ御覧セラレテモ平相国清盛カ四

海ヲ掌ニニキリテ平安城ヲ此皐〔左注〕〔カウ〕湿ノ地ニ移タリシカ幾程ナ

クテ亡シモ偏ニ上ヲ犯ントセシ侈ノスヘ果テ天ノ為ニ被レ罰シソカ

シト思召慰ム端シト成ニ梟印南野ヲ末ニ御覧シテ須磨ノ浦

ヲ令セ過給ヘハ昔源氏ノ大将ノ朧月夜ニ名ヲ立チテ今此浦ニ被レ流テ

三年ノ秋ヲ送シニ彼只爰許ニ立来ル心地シテ泪落トハ覚子ト

枕ハ浮ハカリニ成ニ梟ト旅寝ノ秋ヲ悲ミシモ理成ト思召テ　【14ウ】

明石浦ノ朝霧ニ遠ク成行淡路方寄セクル波モ高砂ノ尾上

ノ松ニ吹嵐ノ跡ニ幾重ノ山川ヲ打越テ行美作ヤ久米ノ佐

羅山更々ニ今ハ可有時ナラヌニ雲間ノ山ニ雪見テ遙ニ遠

キ峯有御警固ノ武士ヲ召テ山ノ名ヲ御尋有梟ニ是ハ伯
耆ノ大山ト申山ニテ候ト申梟レハ且ク御輿ヲ被レ留テ内証甚
深ノ法施ヲ奉セ給フ或時ハ雞唱ニ茅店ノ月ヲ抹過或
時ハ馬蹄ニ板橋ノ霜ヲ踏破ス行路ニ日窮リヌヘケレハ都ヲ御
出有テ十三日ト申ニ出雲国三尾湊ニ令レ着給爰ニテ便
船ノ艤シテ渡海ノ順風ヲソ被レ待梟　【15オ】

備後三郎高徳叉付呉越事

其此備前国ニ児嶋備後ノ三郎高徳ト云者有主上笠置ニ
御座有シ時寄ニ参シテ義兵ヲ上ントセシカ叉未成サル先ニ笠
置モ被レ落ヌ楠モ自害タリト聞シカハ力ヲウシナツテ黙止梟
カ主上隠岐国ヘ被レ遷サセ給ヌト聞テ弐ナキ一族共ヲ集テ
評定梟ハ志士仁人ハ無シ求テ生ヲ以害スルコトニ仁ニ有リ殺レテモ身以成レコト仁ヲト云
リ去ハ昔衛懿公カ北狄ノ為ニ被レ弑テ有シヲ見テ其臣ニ弘浜ト
イツシ者是ヲ見ニ忍ス自腹ヲ掻切テ懿公カ肝ヲ取テ己カ胸
中ニ収タリ是先君ノ恩ヲ死後ニ報シテ失タリキ義ヲ見テ為サ　【15ウ】
ルハ勇ナキ者也誘ヤ臨幸ノ路次ニ参合君ヲ奪取奉リテ
大軍ヲオコシ尸ヲ戦場ニ曝共名ヲ子孫ニ伝ント申ケレハ心有
一族共皆此儀ニ同シテ去ハ路次ノ難所ニ相待テ其隙ヲ可レ伺トテ
備前ト播摩トノ堺ナル船坂山ノ到下ニ隠フシ今ヤ〃〃ト待タリ
梟臨幸余ニ遅リケレハ人ヲ走カシテ是ヲ見スルニ警固武士山
陽道ヲハ不レ経シテ播摩今宿ヨリ山陰道ニカヽリテ遷幸ヲ
成奉リ梟間高徳カ支度相違シテ梟去ハ美作国杁
坂コソ究竟ノ深山ナレハ爰ニテ奉レ待ト三石山ヨリ筋替ニ道
モ無ニ山ヲ越雲ヲシノキテ杁坂ヘ着タリケレハ主上ハヤ院庄ヘ令
入給ヌト申梟間無レ力トテ此ヨリ散々ニ成梟カ責テ此所存
ヲ上聞ニ達ハヤト思梟間微服潜行シテ時分ヲ伺ケレ共可
然隙モ無リケレハ君ノ御座有梟御宿ノ庭ニ大成桜木ノ
有梟ヲ推削テ大文字ニ一対ノ詩ヲソ書付タリ梟

天莫レ冗ニ勾践ニ　時ニ非レ無ニ范蠡ニ

ト御警固武士共朝ニ是ヲ見付テ何叉ソ何成者カ書タル
ラントテ読煩テ即上聞ニ達テケリ主上ハ頓テ詩意ヲ御覚リ
有テ龍顔殊ニ御快ケニ打笑セ給ヘ共武士共ハ敢テ其来歴
ヲ不レ知思禁ル叉モ無リ梟抑此詩ノ意ハ呉国ニ呉越　【16ウ】
トテ双ル二ツ国有此両国ノ諸侯皆王道ヲ不レ行シテ覇業ヲ
為レ務ト梟間呉ハ越ヲ討テ取ントシ越ハ呉ヲ亡シテ并ントス
如レ此相争叉已ニ累年ニ及ンテ呉越互ニ勝負ヲ易シカ
ハ親ノ敵ト成子ノ讎ト成テ共ニ天ヲ戴ク事ヲハツ周ノ季ノ
世ニ当リテ呉国ノ主ヲハ呉王夫差ト云越国ノ主ヲハ越王勾
践トソ申梟或時此越王范蠡ト云大臣ヲ召テ宣梟ハ呉
王ハ是我父祖ノ敵也我是ヲ不レ討シテ徒ニ年ヲ送事只勾
践カ嘲ヲ一天ノ人口ニ取已而ニ非ス兼テハ父祖ノ尸ヲ九泉ノ
苔ノ下ニ留ムル事ヲ恨ル有然レハ我今国兵ヲ召集テ自呉　【17オ】
国ヘ打越呉王夫差ヲ亡テ父祖ノ恨ヲ散ント思也汝ハ且此
国ニ留テ社稷ヲ可レ守ト宣ケレハ范蠡諫テ申梟ハ臣
潜叉子細ヲ略ニ今越ノ力ヲ以呉国ヲ亡ン叉ハ頗ル以可レ難カル

其故ハ先両国ノ兵ヲ数ユルニ呉ハ已ニ廿万騎越ハ纔ニ十万
騎也誠ニ小ヲ以テ大ニ敵セス是呉ヲ亡難キ其一也次ニ時ヲ以
是ヲ略ルニ春夏ハ陽時ニテ忠賞ヲ行ヒ穐冬ハ陰ノ時ニテ
刑罰ヲモツハラニス時今春始也全征罰ヲ可レ致時ニ非ス是
呉ヲ亡シ難キ其二也賢人所レ帰則チ其国強シト云リ臣聞呉
王夫差ノ臣下ニ伍子胥ト云者有智深シテ人ヲナツケ慮　【17ウ】
遠シテ主ヲ諫ム渠濃呉国ニ有ン程ハ呉ヲ亡亡可レ難ル是等
其三也麒麟ハ一角ニ聞有テ大勢奮〔フルウ心ナリ〕迅形ヲ顕サス潜
龍ハ三冬ニ熱〔ヒシクル〕シテ必一陽来復ノ天ヲ待ツ君呉越ヲ合中
国ニ臨テ南面シテ孤称セントナラハ且ク兵ヲ休メ武ヲ隠シテ時ヲ
可ニ待給フト申梟ハ越王大忿テ宣梟ハ礼ニ父之讎ニハ弗ス与トモ
共ニ〜戴レ天ヲ一ト云リ我歳卅ニ及迄呉ヲ不レ亡シテ日月ノ光ヲ戴ク
事人ノ所レ指非也是以兵ヲ集処ニ汝三ノ不可ヲ上テ我ヲ
止事其儀一モ道ニ協ハス先兵ノ多少ヲ数エテ戦ヲ可ク致ハ越
誠ニ呉ニ対シ難シ然ニ軍ノ勝負ハ必シモ勢ノ多少ニ不レ寄只　【18オ】
時ノ運随テ且将ノ謀ニヨレリ去ハ呉ト越ト相闘ヌ已ニ度々ニ
及テ雌雄互ニ易ェキ是皆汝カ所レ知也今更何ソ越ノ小勢ヲ
以テ呉ノ大敵ニ闘ヌ不レ協ト我ヲ諫ヘキヤ是汝カ武略ノ不レ足
其一也次以レ時軍ノ勝負ヲ略ラハ天下ノ人皆時ヲ知レリ誰カ
軍ニ勝サラン天時ハ不レ如ニ地利一ニ々々ハ不レ如ニ人和一ト云リ然ヲ汝今征
罰
行フヘキ時ニ非スト我ヲ諫ムル是汝カ知慮ノ浅所ノ其二也次ニ
呉国ニ伍子胥カ有ン程ハ呉ヲ亡亡不レ可レ叶ト云ハ我遂ニ
父祖ノ敵ヲ討テ恨ヲ泉下ニ報ン亡不レ可レ有只徒ニ伍子胥
カ死ン亡ヲ待ハ死生雖レ知老少不定伍子胥ト我ト何ヲ　【18ウ】
カ先トシル此理ヲ不レ弁シテ我征罰ヲ可レ止ヤ是汝カ愚頑ノ所レ致
ノ其三也抑我及テ多日一軍兵ヲ集亡呉国ヘモ定テ聞ヌラ
ン亡遅滞シテ却テ呉王ニ被レ寄ナハ悔共不レ可レ有レ益先スル則ハ
而利有制レ人後則ハ被レ制レ人ニト云リ亡已ニ一決セリ且モ不可
止トテ越王十一年二月上旬ニ勾践自十万余騎ノ兵ヲ卒シテ
呉国ヘソ被寄梟呉王夫差守レ之小敵ヲハ不レ可レ蔑トテ
自廿万騎ノ勢ヲ呉ト越トノ堺夫桝県ト云所ニ馳向後ニ
会稽山ヲ当テ前ニ大河ヲ隔テ、陣ヲ取態ト敵ヲ討カ為ニ
三万余騎ヲ出シテ十七万騎ヲハ陣ノ後ノ山陰ニ深隠シテソ　【19オ】
置タリ梟去程ニ越王夫桝県ニ打莅テ呉ノ兵ヲ見給ヘハ
其勢二三万騎ニハ不レ過ト覚テ所々ニ扣タリ越王見レ之思
ニハ似ス小勢成梟ト侮テ十万騎ノ兵同時ニ馬ヲ打入馬
筏ヲ組テ打渡ス比ハ二月上旬ノ亡ナレハ余寒猶烈シテ河
水氷ニ連レリ兵手凍ヘテ弓ヲ引ニ不レ協馬雪ニ泥テ懸扣モ
不成去テ越王責鼓ヲ打テ被レ進梟間越兵我先ニト
轡ヲナラヘテ蒐入呉国兵ハ兼ヨリ敵ヲ難所ニ将入テ取
籠テ討ント議シタル亡ナレハ態ト一戦モセテ夫桝県ノ陣
ヲ退テ会稽山ヘ引籠ル越ノ兵勝ニ乗テ逃ヲオウ亡三　【19ウ】
十余里四隊〔ツイ〕ノ陣ヲ一陣ニ合テ左右ヲ顧ス馬ノ息モキル、程思
々ニソ追タリ梟日已ニ暮ナントスル時ニ呉兵廿万騎思図ニ
敵ヲ難所ヘ将入テ四方山ヨリ打テ出越王勾践ヲ中ニ取籠

三一

一人モ不レ漏ト攻戦越ノ兵ハ今朝ノ軍ニ遠懸シテ馬人共ニ
疲レタル上無レ勢成ニ梟レハ呉ノ大勢ニ被レ囲テ一所ニ打寄
テ扣タリ進テ前成敵ニ懸ントスレハ敵ハ険阻ニ支テ鏃ヲソ
ロヘテ待懸タリ返テ復後成敵ヲ払ントスレハ敵ハ大勢ニテ
強ク越ハ小勢ニテ疲タリ進退云ニ谷テ敗亡共ニ得タリ去
テ越王勾践ハ堅ヲ破リ利ヲ砕ク叀項王カ威ヲノミ樊噲　【20オ】
カ勇ニモ過タリケレハ大勢ノ中ヘ蒐入テ十字ニ懸破巴ノ字
ニ追廻ス一所ニ合テ三所ニ離レ四方ヲ払テ八面ニ当項刻
ニ変化シテ百般闘ト云共越王遂ニ打負テ七万余騎被
討ニ梟勾践悚煩テ会稽山ニ打上リ先越兵ヲ数フルニ討
残レタル兵ハ纔ニ三万余騎也夫モ半ハ手ヲ負テ悉ク矢ツ
キ鉾ヲレタリ勝叀ヲ呉越ニ窺テ未何方ヘモ付サリツル隣
国ノ諸侯多ク呉王ノ方ニ馳加リケレハ呉兵弥重テ三十
万騎会稽山ノ四面ヲ囲テ稲麻竹葦ノ如也越王帷幕
ノ中ニ入兵ヲ集テ宣梟ハ我運命已ニ尽テ今此囲ニ合ヘ　【20ウ】
是全戦ノ咎ニ非ス天我ヲ亡サント也然ハ我明日士ト共ニ敵ノ
囲ヲ出テ呉王ノ陣ヘ蒐入尸ヲ軍門ニ瀑シ恨ヲ再生ニ報ヘ
シトテ越ノ重器ヲ積テ悉ク焼捨ントシ給フ亦王韶与トテ
八歳ニ成給フ叀愛ノ太子越王ニ随テ此陣ニ御座梟ヲ呼
出奉テ汝未幼稚ナレハ我ニ死ニヲクレテ敵ニ虜レ憂目ヲ
見ン事モ心憂カルヘシ若亦我為ニ虜レテ我ヨリ先立テハ
生前ノ思モ忍難シ不レ如汝ヲ先立テ心安思切リ明日ノ軍ニ討
死シテ九泉ノ苦ノ下三途ノ露ノ底迄モ父子ノ恩愛ヲ不レ捨
ト思フ也トテ左袖ニ泪ヲ拭ィ右ノ手ニ釵ヲ提テ太子ノ自害ヲ　【21オ】
進給フ時ニ越王ノ左将軍ニ大夫種ト云臣有越王ノ御
前ニ進出テ申梟ハ生ヲ全シテ命ヲ待叀ハ遠シテ難ク死ヲ軽
シテ節ニ臨死叀ハ近シテ安シ君暫重器ヲ焼太子ヲ殺叀ヲ止
給ヘ臣不敏也ト云共本国ニ帰リテ再ヒ大軍ヲ赴シ呉
王ヲアサムキテ君王ノ死ヲスクイ此恥ヲス、カント思フ今此上
ヲ囲テ一陣ヲ張シムル呉ノ上将軍大宰嚭ハ臣カ古ノ朋友
也久ク相馴テ彼カ心ヲ察シニ是誠血気ノ勇者也ト云
共飽マテ心ニ欲有テ後禍ヲ顧ス亦彼呉王夫差ノ行迹
ヲカタルヲ聞シニ智浅シテ謀短ク色ヲ嬈シテ道ニ暮シ君臣　【21ウ】
共ニ何モ欺ニ安キ所也抑今越ノ軍利無シテ呉ノ為ニ囲ヌル叀
モ君范蠡カ諫ヲ用給サリシ故ニ非ヤ願ハ君王暫ク臣カ
尺寸ノ謀ヲ被レ許テ敗軍数万ノ死ヲスクイ給ヘト申ケレハ越
王理ニヲレテ敗軍ノ将ハ二度不レ謀ト云リ今ヨリ後ノ叀ハ併大
夫種ニ任ヘシト宣テ重器ヲ被レ焼叀ヲモ止メ太子ノ自
害ヲモ被レ止ニ梟大夫種即君命ヲ請テ冑ヲヌキ旗ヲ
巻テ会稽山ヨリ馳下リ越王威尽テ呉ノ軍門ニ下ト喚
ケレハ呉ノ兵卅万騎勝鬨ヲ作リテ万歳ヲ唱大夫種即
呉ノ轅門ニ入テ君王傍臣勾践ノ従者小臣種慎テ呉ノ　【22オ】
上将軍ノ下執事ニ属スト云テ膝行頓首シテ大宰嚭カ
前ニ平服シテ大宰嚭ハ床上ニ居ナカラ帷幕ヲ上サセテ大夫
種ニ謁大夫種敢テ平視セス面ヲタレ涙ヲ流シテ申梟ハ
寡〔左注ヤモメ〕君勾践運窮リ勢尽テ呉兵ニ被レ囲ヌ依今小臣

三二

種ヲシテ越王永ク呉王ノ臣ト成同ク一畝ノ民ト云レン叟ヲ請ハ
シム願ハ先日ノ罪ヲ被レ許テ今日ノ死ヲ助ケ給テ将軍若
勾践ノ死ヲスクイ給ハ越国ヲ呉王ニ献シテ沐浴ノ地トナシ重
器ヲ将軍ニ奉テ欽(歓)娯ノ翫ニ備ヘシ若夫所レ請望不レ叶シテ遂ニ
勾践ノ罪ヲ不レ捨トナラハ越ノ重器ヲ焼捨士卒ノ心ヲ一ニシテ　【22ウ】
呉王ノ堅陣ニ蒐入軍門ニ尸ヲ留ヘシ臣平生将軍ト交ヲムス
フ事深シ生前ノ芳恩只此事ニ有将軍早ク此叟ヲ呉
王ニ奏シテ臣カ胸中ノ安否ヲ反命ノ中ニ令レ知給ヘト一度ハ
忿リ一度ハ歎キ言ヲ尽シテ申ケレハ大宰嚭顔色誠ニ解
テ事以テ難カラス我必越王ノ罪ヲハ申宥ヘシトテ頓テ呉
王ノ陣ヘソ参梟大宰嚭即呉王ノ玉座ニ近付叟ノ子細ヲ
奏シケレハ呉王大忿抑呉ト越ト国ヲ争ヒ兵ヲ挙スル事
更ニ今日而已ニ非ス然而勾践運窮テ呉ノ為ニ擒トナレリ
是天ノ予ニ与タルニ非スヤ汝是ヲ知ナカラ勾践カ命ヲ助ケン　【23オ】
ト請敢テ忠烈ノ臣ニ非ト宣ケレハ大宰嚭重テ申梟ハ臣
不肖成ト云共苟モ将軍ノ号ヲ被レ許テ越兵ト闘ヲ致ス
日謀ヲ廻シテ大敵ヲ破リ命ヲ軽シテ勝利ヲ心ヨクセリ是偏臣カ
丹心ノ功ト可レ云君王ノ為ニ天下ノ太平ヲ計ンニ豈一日モ忠ヲ
尽シ心ヲ傾サランヤ倩叟ノ是非ヲ計ニ越王戦ニ負テ威
已ニ尽ヌト云共所レ残ノ兵尚三万余騎皆逞兵鉄騎ノ勇
士也縦呉兵多ト云共昨日ノ軍ニ功有テ今ヨリ後ハ身ヲ全シテ
賞ヲムサホラン叟ヲ思ヘシ越ノ兵ハ小勢成ト云共志ヲ一ニシテ而
モ遁ヌ所ヲ知レリ窮鼠却テ噛レ猫ヲ闘雀不レ恐レ人ヲト云リ呉　【23ウ】
越重テ闘ハ呉ハ必危ニ近カルヘシ不レ如先越王ノ命ヲ助ケ一畝
ノ地ヲ与テ呉ノ臣下ト成サンニハ然而呉越両国ヲ并ノミニ非ス
斉趙モ悉ク不レ朝ト云叟不可有是根ヲフカフシ帯ヲ堅
スル道成ト理ヲ尽シテ申ケレハ呉王即欲ニフケリ心ヲタクマシウ
シテ去ハ早ク会稽山ノ囲ヲ脱テ勾践ヲ可レ資トソ宣梟大
宰嚭帰テ此由ヲ大夫種ニ語ケレハ大夫種大悦テ会稽山
ニ馳帰リ越王ニ此由ヲ申セハ士卒皆色ヲ直シテ万死ヲ出テ一生ニ相
合叟偏ニ大夫種カ智謀ニ懸レリト悦ヌ人モ無リ梟越王已ニ
旗ヲ被レ立ケレハ会稽ノ囲ヲ解テ呉ノ兵ハ呉帰リ越ノ兵ハ越　【24オ】
ニ帰ル勾践即大子王嚭与ヲハ大夫種ニ付テ本国ヘ返シ遣シ我
身ハ白馬素車ニ乗シテ越ノ尓綬ヲ頸ニ懸自呉ノ下臣ト
号シテ呉ノ軍門ニ下給フ此リ梟レハ呉王尚心許ヤ無リケン君
子ハ刑人ニ不レ近トテ勾践ニ面ヲ見給ハス剰勾践ヲ典獄官ニ
被レ下テ日々ニ行コト一駅〔十里行コト〕駈シテ呉ノ姑蘇城ヘ入給フ

其分野

ヲミル人ノ泪カ、ラヌ袖ハ無シ日ヲ経テ姑蘇城ニ着給ケレハ即杈
械ヲ入テ土ノ楼ニソ奉入梟夜明日暮レ共月日ノ光ヲモ見給
ハ子ハ一生溟暗ノ中ニ向テ年月ノ移易ヲモ知給ハス泪ニウカフ床ノ
上其コソハ露モ深カリケメ去程ニ范蠡越国ニ有テ此叟ヲ　【24ウ】
聞ニ恨骨髄ニ通リテ忍難シ哀何ニモシテ越王ノ命ヲ助リ本
国帰給カシ諸共ニ謀ヲ廻シテ会稽ノ恥ヲ雪カント肺肝ヲ砕テ
思ケレハ身ヲヤツシ形ヲ替テ簀ニ魚ヲ入テ自是ヲ荷ヒ魚ヲ

三三

売ル商人ノ様ニシテ異国ヘソ行タリ梟ル姑蘇城ノ辺ニ徘徊シテ勾践ノ御座ル所ヲ問ケレハ或人委ク教知セテ梟范蠡
嬉ク思テ彼獄ノ辺ヘ行タリケレ共禁門ノ警固無レ間ケレハ
一行ノ書ヲ魚ノ腹ノ中ニ納テ獄中ヘソ投入梟勾践是ヲ
怪ク思テ魚ノ腹ヲ明テ見給ヘハ
西伯ハ囚二牖里一　重耳走レ翟ニ　【25オ】
皆以為二王覇一　莫二死ヲ許レ敵ニ
トソ書タリ梟筆勢文体更ニ可レ惑ナシ范蠡カ作業
也ト見給ケレハ渠濃未浮世ニナカレヘテ我為ニ肺肝ヲ尽シ梟
ヨト其志ノ程哀ニモ今憑敷思梟ニコソ一時片時モ生ヲ憂ト
訴レシ我身ナカラノ御命モ却テ惜クハ被レ思ケレ此ケル処ニ呉王
夫差俄ニ石淋ト云病ヲ請テ身心鎮ニ悩乱給ヘリ巫女〔カンナキ〕
祈共験ナク医師治スレ共愈ス露命已ニ危ク見給処ニ
他国ヨリ名医来テ申梟ハ御病誠ニ重ト云共医師ノ
術ノ不可及ニ非ス石淋ノ味ヲ嘗テ五味ノ様ヲ知スル人有ハ　【25ウ】
輙ク療治奉ルヘシトソ申梟去ハ誰カ此石淋ヲ嘗テ其味ヲ
可レ知ト問ニ左右ノ近臣相顧テ是ヲ嘗ト云人更ニ無リ梟
勾践是ヲ伝聞テ涙ヲ押テ宣梟ハ我会稽ノ囲ニアイシ
時已ニ被レ討ヌヘカリシヲ今命ヲ資置レテ天下ノ赦ヲ待叉
偏君王慈恵ノ原恩也我今是ヲ以其恩ヲ報スンハ正ニ
何ノ日ヲカ期セントテ潜ニ石淋ヲ取テ之ヲ嘗メ其味ヲ医師ニ
知セラル医師味ヲ聞テ療治ヲ加ルニ呉王ノ病忽ニ平癒シ
テ梟呉王大悦テ人心有テ我死ヲ資ク我何是ヲ謝ルニ心
ナカンヤトテ越王ヲ楼ヨリ奉レ出ノミニ非ス剰越国ヲ返与ニ本　【26オ】
去トソ宣下セラレ梟爰ニ呉王ノ臣ニ伍子胥ト申者呉王ヲ
諫申梟ハ不レ取二天与一却得二其咎一ト云リ此時越ノ地ヲ不レ取シテ
勾践ヲ帰シムル叉千里ノ野辺ニ虎ヲ放カ如シ後ノ禍近ニ可レ有
ト申ケレ共呉王是ヲ聞給ハス遂ニ勾践ヲ本国ヘソ被レ帰梟
越王已ニ車轅ヲ廻シテ越国ヘ帰給フ処ニ蛙其数ヲ不レ知車ノ
前ニ飛来レリ勾践是ヲ見給テ是ハ勇士ヲ得テ素懐
ヲ達スヘキ瑞相ナリトテ車ヨリ下テ是ヲ拝給角テ越国ヘ
帰リテ住ニシ古宮ヲ見給ヘハ何シカ三年ニ荒果テ梟松
桂ノ枝ニナキ狐蘭菊ノ蘂ニカクル掃人無キ閑庭ナレハ　【26ウ】
落葉満テ粛々タリ越王死ヲマヌカレテ帰給ヌト聞ヘシカハ
范蠡大子王嚭与ヲ宮中ヘ入奉ヌ越王ノ后ニ西施ト云美人
御座梟容色世ニ勝レ嬋娟類ナカリシカハ越王寵愛
殊ニ甚シクシテ且モ側ヲハナレ給ハサリキ越王呉ニ囚レ給シ程ハ其
難ヲ遁為ニ身ヲソハメテ隠居給ヒタリシカ越王帰給ヌル
由ヲ聞テ即後宮ニ帰参給年ノ三年ヲ待侘テ堪ヘヌ思ニ
沈ミ給梟歎キノ程モ顕テ鬢疎ニ膚ヘ消タル御形イト分無
ク臈蘭ニテ梨花一枝ノ春ノ雨喩ム方モ無梟公卿大夫
文武百司此彼ヨリ馳集ケル間軽軒紫陌ノ塵ニハセ冠　【27オ】
珮丹墀ノ月ニサヽメイテ堂上堂下二度開花ノ如シ此梟
処ニ呉王ヨリ使者来梟越王驚テ范蠡ヲ以叉ノ子細ヲ
問給ヘハ使者答テ云ク我君呉ノ大王嫐ヲコノミ色ヲ重シテ美
人ヲ尋給叉已ニ天下ニ周シ然テ未西施カ如キノ顔色ヲ得ス

三四

越王古会稽山ノ囲ヲ出シ時一言ノ約有リ早ク彼西施ヲ
呉ノ後宮ニ冊入奉リテ后妃ノ位ニ備ヨトノ使也ト越王是ヲ
聞給テ我呉王夫差カ陣ニ下テ恥辱ヲ忘レテ石淋ヲナメ
忽ニ命ヲ資リシ叟全国ヲ保チ身ヲ栄エントニハ非ス只西
施ニ偕老契ヲ結ハン為ナリキ生前ニ一度別テ死後ニ再　【27ウ】
会ヲ期セハ万乗ノ国ヲ保テモ何為サレハ縦呉越ノ会盟破
テ再我呉ノ為ニ擒ト成共西施ヲ他国ヘ送ン叟ハ不可有
トソ宣梟范蠡涙ヲ流シテ申梟ハ誠ニ君展転ノ思ヲ計ルニ
臣心ニ不レ悲ニハ非ト云共君今西施ヲ惜ミ給ハ呉越ノ会
盟再ヒ破テ呉王亦兵ヲ赴ヘシ去程ナラハ越国ヲ呉ニ双ラ
ルヽノミニ非ス西施ヲモ奪レ社稷ヲモ可レ被レ傾臣倩是ヲ計ニ呉
王嬈ヲ好ミ色ニ迷ヘル事既甚シ西施呉ノ後宮ニ入給程ナラ
ハ呉王是ニ迷テ政ヲ失ン叟所レ疑ニ非ス国ノツキヘ民ソムカン時
ニ及テ兵ヲ起呉ヲ責ラレンニ勝事ヲ立所ニ得ッヘシ子孫万　【28オ】
歳ニ及テ夫人連理ノ御契久カルヘキ道ニテ候ト一度泣
一度ハ諫テ理ヲ尽シテ申梟ハ越王理ニヲレテ西施ヲ呉国
ヘソ被レ送梟西施ハ小鹿ノ角ノ束ノ間モ別而可有者カヤト
思シ中ヲ被レ去テ未タ幼ナキ大子ヲモ事云知ス思ヲキ思ヲ旅ニ
出給ヘハ別ヲシタウ涙サヘ暫シカ程モ留ラテ袂ノ乾間モ無越
王ハ是ヤ限ノ別成覧ト堪ヌ思ニ伏沈テ其方ノ空ヲ詠
遣ハ迢々タル暮山ノ雲霓ト涙ノ雨ト也空床ニ独寝テ
夢ニモ責テ相見ハヤト枕ヲソハタテ臥給ヘハ添甲斐モナ
キ面影ニ立添事ノ為ン方ナキト歎給モ実ニ人ノ理也ト　【28ウ】

彼西施ト申ハ天下第一ノ美人也粧成テ一笑ハ百ノ媚君
カ眼ヲ迷ハシメ漸ク池上ニ花ナキカト疑レ艶閑〔ミヤヒヤカ〕テ纔ニ
見ハ千
々ノ態人ノ心ヲトラカシイテ忽ニ雲間ニ月ヲ失フカト恠シマル去ハ
一度宮中ニ入テ君王ノ傍ラニ侍リタリ呉王ノ御心浮レテ夜ハ
終夜嬈楽ヲノミ嗜テ世ノ政ヲモ聞ス昼ハ尽日ニ遊宴ヲ
而已叟トシテ国ノ危ヲモ顧リス金殿雲ニサシハサンテ四辺三百
里カ間ノ山川ヲ枕下ニ真下テモ西施ト宴セシ夢中ニ万端
ノ奥ヲ催ン為也キ輦路ニ花ナキ春日ハ麝臍ヲ埋ミテ
履ヲニホハシ行宮ニ月ナキ夏夜ハ蛍火ヲ集テ燭ニカフ　【29オ】
嬈楽日ヲ重テ更ニ止時無リシカハ上荒下廃ルレ共信佞臣
ハ猶阿諫〔オモ子ツテイサメス〕ス依レ之呉王万事ニ酔テ忘タルカ如シ
伍子胥
見之呉王ヲ諫テ申梟ハ君不レ見ヤ殷ノ紂王ハ妲妃ニ迷テ
世ヲ乱リ周ノ幽王ハ褒姒ヲ愛シテ国ヲ傾事ヲ君今西施ニ嬈
給ヘル叟是ニ過タリ国ノ傾敗遠ニ非ス願ハ君是ヲ止給ヘト
言顔ヲオカシテ諫申ケレ共呉王敢テ聞不レ給或時呉王
西施ニ宴セン為ニ群臣ヲ召テ南庭ノ花ニ酔ヲ進メ給梟処
伍子胥威儀ヲ正シテ参梟カ指モ玉ヲ敷金ヲチリハメタル瑶
階ヲ登トテ其裳ヲ高ク褰タル事宛モ水ヲ渡ル時ノ如シ　【29ウ】
其恠ミキ其故ヲ問ニ伍子胥答テ申梟ハ此姑蘇台越王ニ
被レ亡テ草深ク露惆地ト成ラン叟遠ニ非ス臣若其迄命
有ハ住来シ昔ノ跡トテ尋ミン時其コソハ袖ヨリ余ル荊棘

ノ露モ瀼々トシテ深カンスラント行末ノ秋ヲ思故ニ身ヲナラ
ハシメ裳ヲハ褰ナリトソ申梟忠臣諫ヲイルレ共呉王カツテ
用給サリシカハ余ニ諫煩テ亘ヤ命ヲ殺シテ危ヲ助ケントヤ思
ケン伍子胥或時只今新ニ硎ヨリ出タル青蛇ノ釼ヲ持参
タリ抜テ呉王ノ御前ニ拉テ〔トリヒシク〕申梟ハ臣此釼ヲトク叟
邪ヲシリソケ敵ヲハラハン為也倩国ノ傾トスル其基ヲ尋皆【30オ】
西施ヨリ出タリ是ニ過タル敵有ヘカラス願ハ西施カ首ヲ刎テ
社稷ノ危ヲ助ケント云テ牙ヲカンテ立タルハ忠言耳ニサカヘル
時君非ヲ不レ犯ト云叟無ケレハ呉王大忿テ伍子胥ヲ
誅セントス伍子胥敢テ是ヲ悲ス争諫テ節ニ死スルハ是
臣下ノ則也我越兵ノ手ニ死ヨリハ寧君王ノ手ニ死センコ
ト恨中ノ悦也但君臣カ諫ヲ忿テ我ニ死ヲ給叟是天
已ニ君ヲスツル也君越王ノ為ニ被レ亡テ刑戮ノ罪ニ伏ン叟
三年ヲ過ヘカラス願ハ臣ハ両眼ヲクシリテ呉ノ東門ニ掛
ラレ其後首ヲ刎給ヘ一双ノ眼未枯サラン先ニ君勾践ニ被【30ウ】
レ亡テ死刑ニ赴給ンヲミテ一笑ヲ快クセント申ケレハ呉王弥忿
テ即伍子胥ヲ誅セラレ其両眼ヲクシリテ呉ノ東門ノ
幢ノ上ニソ被レ懸梟此シ後ハ君悪ヲ積共臣諫ヲ献ス
ル叟ナシ只群臣ハロヲ禁〔ツクム〕シ万人ハ目ヲ以テス范蠡聞レ之
已ニ時到ヌト悦テ自廿万騎ヲ卒シ忽ニ呉国ヘソ推寄
梟呉王夫差ハ時即晋国呉ヲ背ト聞テ晋国ヘ
被レ向梟隙也梟レハ防兵一人モ無シ范蠡先西施ヲ取返シテ
越王ノ宮ヘ入奉ル姑蘇台ヲ焼払斉楚両国モ越王ニ
志ヲ通シカハ三十万騎ヲ出テ范蠡ニ力ヲ合ス呉王聞レ之【31オ】
先晋国ノ軍ヲ措置テ呉国ヘ引返ン越ニ軍ヲ挑ントスレハ
前ニハ呉越斉楚ノ兵雲霞如クニテ待懸タリ後ニハ
晋国ノ強敵乗勝テ追懸タリ呉王大敵ニ前後ヲ被
レ囲テ可レ遁方モ無リケレハ死ヲ軽シテ闘叟三日三夜范蠡
悪手ヲ入替テ息ヲモ継セス責ル間呉兵三万余人被
レ討テ纔ニ百騎ニ成ニ梟呉王自相当叟三十二ケ度
夜半ニ囲ヲ解テ六十七騎ヲ随テ姑蘇山ニ取登リ越王ニ
使者ヲ立テ曰ク君王昔会稽山ニ苦ム時臣夫差是
ヲ資タリ願ハ我今ヨリ後越ノ下臣ト成テ君王ノ玉趾ヲイ【31ウ】
タ、カン君若会稽ノ恩ヲ忘スハ臣カ今日ノ死ヲスクイ給ヘ
ト礼ヲ厚クシテ降ラン叟ヲソ被レ請梟越王聞レ之古ノ我
思ニ今人ノ悲サコソト哀ニ思出ラレテ呉王殺ニ堪ヘス其
死ヲスクハン事ヲ思ヒ給ヘリ范蠡聞レ之越王ノ御前ニ参
面ヲ戴テ申梟ハ柄ヲ切ル叟其規未レ遠害ニ合ヘリ今
還テ天越ニ呉ヲ与タリ取叟無ハ越亦如レ此ノ害ニ可レ逢
也君臣共ニ肺肝ヲ砕テ呉ヲ計事廿一年一朝ニシテ棄事
豈悲サラン哉君非ヲ行時順サルハ臣ノ忠也ト云テ呉王ノ
使者未レ帰先ニ范蠡自責鼓ヲ打テ兵ヲ進メテ遂ニ呉【32オ】
王ヲ生捕テ軍門ノ前ニ引出ス呉王已ニ面縛セラレテ呉
ノ東門ヲ過給フニ忠臣伍子胥カ諫ニ依テ首ヲ被レ刎シ時
幢上ニ掛タリシ一双ノ眼三年迄未レ朽シテ有梟カ其眸明
ニ開テ是ヲ相見笑ヘル気色也ケレハ呉王是ニ面ヲ見叟

三六

遉恥敷ヤ被レ思ケン袖ヲ顔ニ当首ヲ低テ過給フ数万ノ
兵見レ之涙ヲ不レ流ハ無リ梟即呉王ヲ典獄ノ官ニ被レ下会
稽山ノ麓ニテ遂ニ首ヲ刎奉ル古ヨリ末俗ノ諺ニ会稽
ノ恥ヲ雪クトハ此叟ヲ云成ヘシ是ヨリ越王呉ヲ 并 ノミニ非ス
晋楚斉秦ヲ平ケテ覇者ノ盟主ト成シカハ其勲　【32ウ】
功ヲ賞シテ范蠡ヲ万戸ノ侯ニ報ントシ給ヒシカ共范蠡
曽テ其禄ヲ請ス剰大名ノ下ニハ久居ヘカラス功成名遂テ
身退ハ天ノ道也トテ遂ニ姓名ヲカヘ陶朱公ト呼レテ五
湖ト云所ニ身ヲ隠シ憂キ世ヲイトヒ菩提心ヲ起テソ
居タリ梟釣シテ蘆花ノ岸ニ宿スレハ半蓑ニ雪ヲト、メ
歌　楓葉ノ陰ヲ過レハ孤舟ニ秋ヲ裁タリ一蓬ノ月万頂
ノ天紅塵ノ外ニ遊ンテ白頭ノ翁ト成ニ梟児嶋備後
三郎高徳此事ヲ 思准 テ僅ニ一聯ノ句ニ千度ノ思ヲ
述テ竊ニ叡聞ニソ達梟　【33オ】

先帝御下着事

去程ニ先帝ハ出雲国三尾湊ニ十余日御逗留有テ已ニ
順風ニ成ケレハ船人 纜 ヲ解御舟ノ 艤 シテ兵船三百余
艘前後左右ニ漕並テ万里ノ雲ニサカノホリ時ニ滄海沈々ト
シテ日西北ノ浪ニ入雲山迢々トシテ月東南ノ天ニ出漁舟ノ帰
ヲ見ハテ一燈柳岸ニ幽ナリ暮レハ蘆岸ノ煙ニ船ヲツナキ
明ハ松江ノ風ニ帆ヲ揚波路ニ日数ヲ重レハ都ヲ御出有テ後
廿六日ト申ニ御船ハ隠岐国ニ着ニッ梟佐々木隠岐判官貞
清府嶋ト云所ニ黒木ノ御所ヲ作リテ皇居トス玉扆ニ　【33ウ】
咫尺シテ召仕ハレケル人トテハ六条少将忠顕頭大夫行房女
房達ニハ三位殿ノ御局計也昔ノ玉楼金殿ニ引替テ憂
節シケキ竹ノ椽涙隙ナキ松ノ垣一夜ヲ隔ツル程タニモ堪
忍ヘキ御心地ナラス鶏人ノ暁ヲトナフル音武士ノ番ヲモヨ
ホス声計御枕上ニ進ケレハ夜御殿ニ入セ給テモ露真寝
セ給ハス萩ノ戸ノ明ヲ期シ朝政無ケレ共巫山ノ雲ノ雨ノ
御夢晴ル、時モナキ侭ニ毎暁〔左注アカツキコトイケウ〕ノ御勤北辰ノ御拝ニ令懈
給ハス今年何成年成レハ百官罪ナフシテ愁涙ヲ配所ノ
月ニシタテ一人位ヲカヘテ宸襟ヲ他郷ノ風ニ悩マシ給ラン　【34オ】
天地開闢ヨリ以来未此ル不思議ヲ聞ス去レハ天ニカ、レ
ル日月モ誰カ為ニカ明成事ヲ恥サラン心無キ草木モ是
ヲ悲テ花開ク事ヲ可レ忘ヌ

太平記巻第四　【34ウ】